

【令和6年度普及活動報告一覧】

恵那農林事務所農業普及課の普及活動報告 令和6年4月

恵那の農業・農村を支える人材育成

■集落営農・法人化 新法人「(農)中野方第1部営農組合」が誕生

恵那市中野方地区の西部（一～三区）において、平成21年から農業機械・施設の共同利用と水稻基幹作業の受託等を行ってきた任意組織「中野方第1部集落営農組合」は、去る3月24日に新法人「農事組合法人 中野方第1部営農組合」としての設立総会を行い、恵那市内では15組織目、中野方地区内では2組織目の集落ぐるみ型法人の誕生に至った。

当該組合の法人化に向けては、令和4年度から県の農業経営者法人化等総合サポート事業を活用し、市・J A・ぎふアグリチャレンジ支援センター・農林事務所による支援チーム体制のもと、専門家派遣による経営分析・診断や税務・法務関係の個別課題指導を行い、新法人の事業計画案の検討を重ねた。その中で農業普及課は、現地検討会等の企画調整・進行役を担い支援活動を行ってきた。

設立された新法人では、柘植代表理事のもと構成員40戸、11ha規模で、水稻・そば生産や水稻基幹作業受託等を行っていく。

農業普及課では、新法人の経営安定に向けた継続的な支援はもとより、将来にわたって持続的に管内の優良農地が守られていくよう集落営農の組織化・法人化・再編等の支援を行っていく。

（地域支援係）



【3月24日開催の設立総会】

恵那農林事務所農業普及課の普及活動報告 令和6年5月

恵那の農畜産物のブランド展開

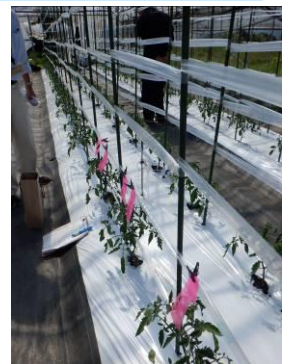
■夏秋トマト・東美濃夏秋トマト生産協議会 夏秋トマトの施肥設計支援システム構築に向けて

恵那農林事務所では、「みどりの食料システム戦略」に基づき、環境負荷（化学肥料窒素）の軽減等による持続可能な農業を推進している。

これを踏まえた適正な施肥に向けては、これまで考慮されてこなかった土壌から供給される窒素を数値化した上で、必要量の施肥を行う必要がある。

そこで、2年前から農業普及課では県農業技術センターと協力して生産者毎の適正な施肥量を把握するため、「施肥設計支援システム」の構築に取り組んでいる。基礎データ集積のため本年度は5月から生育調査を開始した。

今後も農業普及課では、県農業技術センター、東美濃夏秋トマト生産協議会、現地関係機関の協力の下、システムの早期構築と環境負荷軽減技術の実践に向けて支援していく。



【調査ほ場の様子】

（園芸産地支援第一係）

恵那農林事務所農業普及課の普及活動報告 令和6年6月

恵那の農業・農村を支える人材育成

■夏秋トマト 農福連携によるトマト業務委託契約締結式

岐阜県は、農福連携等推進ビジョン（2024改訂版）において、令和12年までに農福連携等に取り組む主体数を12,000以上とし、「地域・未来・絆」を広げるために各種施策を展開している。

農業普及課は、夏秋トマト生産者2名（中津川市）と有限会社介護サービスめぐみ（恵那市）3者による業務委託契約締結식을6月25日に執り行った。

前年夏以降、福祉事業に対し現地検討会・使用器具の検討を繰り返し行い、利用者が活躍できる場の提案を行ってきた。今年度は、トマトの古い葉の摘葉と収穫終了後の片づけの詳細を記した作業手順書を示しながら、双方が納得できる業務委託契約を練り上げてきた。

締結式後、和やかな雰囲気の中、双方からは「単発で終わることなく、継続して実施したい」「楽しくやりがいを持ってもらうことで、他の利用者もやってみたいと思えるよう誘導したい」と感想を述べられた。

業務委託契約に基づき、7月23日から作業がスタートする。当課は、3者に寄り添いながら引き続き支援していくとともに、地域への広がり推進していく。

（園芸産地支援第一係）



【締結を終えて】

恵那農林事務所農業普及課の普及活動報告 令和6年7月

恵那の農業・農村を支える人材育成

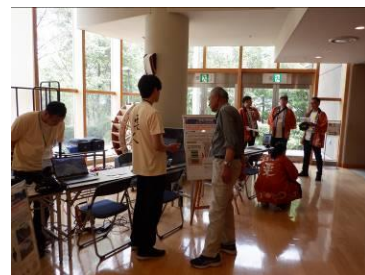
■クリ 第32回全国クリ研究大会岐阜県大会を開催

国内のクリ生産は、担い手の高齢化やクリの高樹齢化に伴い収穫量の減少が懸念されている一方で、栗菓子の需要拡大により供給不足となっている。この課題に対応していくために7月25日、26日に第32回全国クリ研究大会岐阜県大会が、岐阜県の中津川市と恵那市で開催され、328名が参加された。

農業普及課では、大会の運営と展示を担い、展示ではVR剪定技学習支援システムとEラーニングシステムの2つのスマート農業機器のPR活動を会場で行った。VR剪定学習支援システムはVR（仮想空間）内に各樹齢のクリの樹を再現し、その中で剪定指導を行えるもので、樹齢毎の剪定ポイントの学習が可能である。Eラーニングシステムは、クリ栽培における学習問題と剪定方法等の事例動画の視聴を繰り返し学習することで、クリ栽培の理解を深めるというものである。実際に見て触れてもらうことで、多くの生産者に興味を持っていただき、好評であった。県外生産者からは「このような取組みは初めて見た」「自分の地域にも欲しい」という声が挙がり、本大会により県内外に対し東美濃クリ産地がクリ振興のために行っている取組みをアピールできたよい機会となった。



【開会のあいさつ】



【Eラーニングシステムの説明をしている様子】

農業普及課としては、本大会の課題にもあるとおり、担い手の高齢化等に対応するため、VRやEラーニングシステム等のスマート農業技術を活用し、東美濃クリ産地の剪定技術の伝承と担い手育成に力を入れ、持続的なクリ栽培への支援を続けていく。

（園芸産地支援第二係）

恵那農林事務所農業普及課の普及活動報告 令和6年8月

安心で身近な「恵那の食」づくり

■ 水稻（種子）・採種組合 恵那市三郷町での水稻優良種子の確保に向けた生産支援

恵那市三郷町は、県全体の水稻採種圃の4割を占める県下最大の種子生産拠点で、三郷米麦採種生産組合（51戸）により県内稲作農家が使用する種子約250tを毎年生産している。中でもあきたこまちは100%、コシヒカリは96%の生産シェアを誇り、高品質な種子の安定供給を通じて、県内稲作を支えている。



【ほ場審査の様子】

農業普及課では、本年度も春以降、JAと採種組合等と連携し、育苗指導に始まり、田植え以降の水田ほ場巡回による生育確認や管理指導、栽培講習会での講義などを行ってきた。特に7月下旬から8月下旬にかけては、全約570ほ場を各2回ずつ巡回観察し、異品種・異株や病害虫・雑草の発生有無などを確認し栽培管理の改善を促すほ場審査・指導を実施した。

今年度は、夏季高温に伴う水確保、生育前進に伴う防除・収穫時期の早まりなど、栽培管理が難しい年になったが、審査基準を満たす優良な種子が必要量確保できる見通しである。

今後も農業普及課では、種子の安定生産に向けた個別農家の栽培管理指導はもとより、将来にわたって持続的に採種組合が優良種子生産を行っていただけるよう支援を行っていく。

（地域支援係）

恵那農林事務所農業普及課の普及活動報告 令和6年9月

恵那の農業・農村を支える人材育成

■ トマト・新規就農 県外からの就農希望者確保に向けて

東美濃夏秋トマト生産協議会（会員数114戸）では担い手の確保、育成を目的として新規就農者育成部会を設け活動を行っている。地域内はもとより地域外からの就農希望者を確保するため、9月12日に清流の国ぎふ移住・交流センターの岐阜県担当者を招き、部会での取り組み、県外における就農相談の現状と今後について意見交換を行い、「地域の有りのままの姿を見せること」「SNS等で積極的に情報発信する」等、各種助言を頂いた。



【9月12日現地意見交換】

農業普及課では中津川市、恵那市、JAひがしみのと協力し、各種就農相談会に出向き、トマト協議会の活動方針、経営試算等について説明し、意欲ある意向者の確保に努めるとともに、研修までの個別面談、短期、長期研修、就農時の準備等、幅広く支援している。

本年度は頂いた助言を活かして県外での就農相談会にも積極的に参加し、幅広くPR活動を進めていく計画である。

（園芸産地支援第一係）

恵那農林事務所農業普及課の普及活動報告 令和6年10月

恵那の農業・農村を支える人材育成

■担い手リーダー 東濃地区担い手リーダー合同研修会を開催

10月31日（木）、東濃地区の担い手リーダーによる研修会が開催された。担い手リーダーとは指導農業士・青年農業士・女性農業経営アドバイザー（GLAMA）のことで岐阜県知事から認定された農業者の方々からなる。

研修会では「きゅうり専門の指導農業士」と「農家レストラン」の視察、意見交換を行った。

視察先の「きゅうりハウス」では、有利販売のため、味は良いが鮮度維持が難しい品種を新鮮うちに地元スーパーや直売所へ出荷しており、他産地の流通品とは差別化してもらえている。

本年開店した「農家レストラン」では、開設のいきさつ、こだわり、価格設定の難しさなどを伺った。

意見交換では、令和8年度に改定される岐阜県の「ぎふ農業・農村基本計画」に対し、中山間地域である東濃地域の問題や改善提案を話し合った。

農業普及課は研修会の開催支援を行うとともに、リーダーの方々の意見を伺うことができ、県の一現地機関として東濃地域の現状に合った支援をより目指したいと考えている。

（農業普及課長）



【きゅうりハウスでの研修】



【農家レストランでの研修】

恵那農林事務所農業普及課の普及活動報告 令和6年11月

恵那の農畜産物のブランド展開

■クリ・東美濃クリ産地「えな宝月」推進チーム会議

クリ新品種「えな宝月」によるオール岐阜体制づくり

恵那農林事務所では、中山間農業研究所で育種されたクリ新品種「えな宝月」の特徴を生かしてブランド化を進めていくため、生産者、実需者及び関係機関で東美濃クリ産地「えな宝月」推進チーム会議を令和5年度に設置し、振興方針の策定、品質調査や加工品開発を支援してきた。

令和6年度は、新たに開発したスプレッドの消費者の反応を確認するため、11月10日に開催されたJ Aひがしみの農業祭で「えな宝月」のスプレッドの試食アンケート調査を実施した。当日は、350名分の試食を用意し、試食者151名からアンケートの回答をいただいた。アンケート回答者の約65%がクリの風味が強いと感じ、「えな宝月」の特徴を生かした素材に仕上がってきたと実感した。

試食アンケート調査結果を受け、令和7年4月の販売開始に向け、出来上がった素材を生かした商品づくりの支援を継続していく。

「えな宝月」の新商品の販売につながれば、育種、苗生産、生産、出荷、加工、販売まですべて岐阜県内で体制が整う。オール岐阜による新たなクリ振興モデルが構築でき、東美濃クリ産地のさらなる発展につながることを期待している。



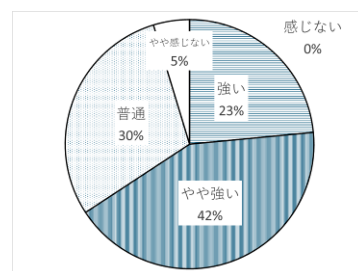
【東美濃クリ産地「えな宝月」推進チーム会議の検討状況（8月19日開催）】



【農山漁村発イノベーションプランナー派遣を活用した新商品づくり支援状況（6月11日実施）】



【試食した「えな宝月」のスプレッド（11月10日実施）】



【スプレッドのクリの風味の強さを感じた割合（11月10日調査）】



【生産者・実需者向けリーフレット（11月作成）】



【クリ新品種「えな宝月」の特徴】

- 岐阜県育成
品種登録番号第24747号
- 収穫期は、「丹沢」と「筑波」の間
- 樹姿は、開張性
- 肉質は粉質で果肉色は黄色く極良食味
- 風味が非常によく、低温貯蔵性が高い

（園芸産地支援第二係）

恵那農林事務所農業普及課の普及活動報告 令和6年12月

恵那の農業・農村を支える人材育成

■夏秋トマト 土壌溶液測定による適正な肥培管理の支援

新規就農者が直面する課題のひとつに施肥管理がある。特にトマト栽培において適正な施肥は非常に重要で、経験が浅い新規就農者にとって草勢を確認し施肥を行うことは難しい場合が多い。

このため農業普及課では、新規就農者に対し、土壌溶液測定を通じて、土壌中の肥料分を推定し、適正な肥培管理について支援を試行した。

毎週1度、土壌溶液の硝酸イオン濃度・EC値・pH及び、作物体中の硝酸イオン濃度測定を行うとともに、追肥やかん水状況について聞き取りを行うことで、土壌の状態や養分バランスを把握し、適正な施肥の提案を行った。

この調査を通じて得たデータは、次作に向けた施肥管理の改善に役立つ貴重な知見となった。生産者からも「施肥の判断材料の一つとなった。来年も継続して行いたい。」との意見を頂いた。

当課では、新規就農者が安定したトマト栽培を続けていけるよう、関係機関と連携してサポートをしていく。



【土壌溶液測定の様子】

(園芸産地支援第一係)

恵那農林事務所農業普及課の普及活動報告 令和7年1月

恵那の農業・農村を支える人材育成

■指導農業士・青年農業士 農業担い手リーダーによる農高・農大出前講座の実施を支援

指導農業士東濃ブロック連絡協議会と東美濃青年農業士会は、12月5日に恵那農業高校、12月13日に農業大学校、1月16日に阿木高校で、生徒・学生に対し農業の魅力や農業者の経験・考え方を伝える「出前講座」を実施した。

本講座は、次代を担う青少年に対し、地域農業への理解や将来の就農への意欲を高めるため、両農業士会の活動事業に位置付け毎年実施している取り組みで、知事認定の農業担い手リーダー（指導農業士、青年農業士）延べ11名が3校に出向いて、講話や交流会での意見交換などを行った。

講話では、各農業士より、就農に至った経緯から現在までの道のり、経営上の苦楽や夢、今後社会に出ていく生徒達へのエールも込めた思いが語られた。

交流会では、生徒から「学校授業では学べない話が聞け、農業もいいなと思った」などの声も聞かれ、農業士それぞれの立場から、生徒達の進路の悩みを踏まえたアドバイスもあり、とても有意義な時間となった。

農業普及課では、両農業士会や各学校と連携してこの出前講座企画を支援しており、一人でも多くの生徒達が農業大学校などへの進学や、将来、農業を職業の一つとして選択してもらえるよう今後も取り組んでいく。



恵那農業高校出前講座



農業大学校出前講座



阿木高校出前講座

(地域支援係)

恵那農林事務所農業普及課の普及活動報告 令和7年2月

恵那の農業・農村を支える人材育成

■普及活動PR

恵那農林事務所農業普及課及び中山間農業研究所中津川支所合同成果検討会を開催

恵那農林事務所と中山間農業研究所中津川支所は、2月14日、恵那総合庁舎で本年度の普及活動並びに試験研究成果の検討会を開催し、生産者や関係機関合わせて100名が参加した。

本検討会で農業普及課は、『これから100年続くクリ産地を目指して』、『地元酒蔵に求められる新酒米「酔むすび」の産地を目指して』、『トマト産地支援の取り組み』の3課題を発表し、参加者を交えての意見交換が行われた。

参加者からは、岐阜県育成品種「酔むすび」を自分の地域でも作れるかという質問があり、新酒米品種への期待が感じられた。トマトの発表では、担い手確保について話し合われ、農業が若者に選ばれるよう積極的な呼びかけをしてほしいとの声や、農福連携の取組結果や課題について意見があった。全体としては、品目に限らず高温対策についての要望が多く見受けられ、迅速な対応が求められた。

農業普及課では、本検討会で出された意見を反映させ、生産者の需要に合った普及活動を展開していく。



【『これから100年続くクリ産地を目指して』の発表の様子】



【『地元酒蔵に求められる新酒米「酔むすび」の産地を目指して』の発表の様子】



【『トマト産地支援の取り組み』の発表の様子】

(園芸産地支援第二係)

恵那農林事務所農業普及課の普及活動報告 令和7年2月

安心で身近な「恵那の食」づくり

■直売所・地消地産 恵那地域農産物直売所等研修会を開催

農業普及課は2月28日、恵那市で農産物直売所や食材供給関係者を対象とした研修会を開催し、40名が参加した。本研修会は、恵那農林事務所が毎年主催しているもので、食の安心安全の確保と農産物直売所の活動活性化を目的としている。

今年度の基調講演では、(株)インフィニバリュー代表取締役 玉川眞奈美氏を講師に迎え、農産物直売所における商品開発をテーマに行われた。玉川氏は商品開発のノウハウや開発した商品の販売促進手法、他県における成功・失敗事例について紹介し、参加者たちに魅力的な直売所づくりに向けた多くの示唆に富む内容であった。

基調講演のほかに、食の安心安全の確保に向けた啓発指導として、農業普及課からは農薬の適正使用について、恵那保健所からは適切な食品表示について、情報提供を行った。

農業普及課では、恵那地域の地消地産を推進するため、地域の農産物直売所がそれぞれの特性を生かし、より活発な活動を展開できるよう支援を継続する。

(地域支援係)



【基調講演】



【農薬の適正使用啓発】

恵那農林事務所農業普及課の普及活動報告 令和7年3月

恵那の農業・農村を支える人材育成

■新規就農者 東美濃地域就農者交流会を開催

恵那農林事務所は3月4日、新規就農者を対象にした交流会を恵那市の恵那総合庁舎で開催した。

交流会は、新規就農者の経営安定と仲間づくりを目的に、就農5年未満の若手農業者と担い手育成に携わるベテラン農家、関係機関に呼びかけて開催し、54人が参加した。

本年度、就農した農業者2名を対象に県独自の認定制度である「清流の国ぎふ担い手証書」の授与式を行い、先輩若手農家が「農福連携を



【担い手証書授与者】

利用した夏秋トマトにおける労働力確保に向けた取り組みについて」と題し、取り組みの効果について発表した。

意見交換会では「雇用」と「地域の魅力」について話し合い、今後の取り組み方針、関係機関への提言を発表し、最後に就農応援隊長、副隊長を務める中津川市長、恵那市長から激励を受けた。

農業普及課では、新規就農者に寄り添いながら、農家リーダーの協力を得つつ、早期の営農定着に向けて支援していく。

(園芸産地支援第一係)



【就農者交流会集合写真】